



では、到底「コピー制御が必要である」という結論を納得することはできない。

社団法人日本映像ソフト協会の公表している統計データによれば、コピー制御が導入された 2004 年をピークとして映像ソフトのマーケットは縮小を続け、番組制作事業者は制作環境の悪化と制作力の低下を訴え、放送局はコピー制御ルールが導入されていない外国から番組を購入して放送しているという現状では、コピー制御に当初期待されていたような効果があるのかどうか疑問を感じる。

コピー制御ルールを強制する手段の選択肢を広げる為にさらにコストを費やすよりも、コピー制御ルールに、現在それを維持する為に費やされているだけのコストに見合う効果があるのかどうかをまず検証するべきだと考える。

そうした検証がなされないままに、どのような議論が行われ、どのような合意が審議会内部の限られた委員の間で形成されようとも、実際の消費者がそれらの結論や合意を尊重することは絶対にありえない。

そうした実際の消費者から尊重されない無駄な議論を続けるのではなく、何故アナログ放送と比較しての利便性低下を受け入れなければいけないのかという疑問に対して、真摯に向き合った検討が行われることを望む。

少なくとも、昨年の第五次中間答申以降に開催されたデジコン委の議事録が公開されないままに募集されたパブリックコメントに対して、「委員会での議論の経緯を無視している」や「パブコメを気にする必要は無い」や「委員会の議論に自信を持とう」などといった、寄せられた意見を愚弄するかのよう態度が各委員から示されないことを期待する。